

平成18年度エリ網付着物の発生状況と周辺水域における付着藻類の分布状況

幡野 真隆・岡村 貴司

◆背景・目的

琵琶湖北湖では春にエリ網に大量の付着物が発生し、問題となっている。そこで本年もエリ網のモニタリング調査を行うとともに、周辺環境での付着藻類の発生状況について調査した。

◆成果の内容・特徴

- 2006年1月から6月にかけて彦根市地先のエリ網でモニタリングを行ったところ、過年度と同程度の付着物が観察され、優占種は昨年度と同様*Encyonema*属などの付着珪藻であった。
- 周辺環境として、彦根市内にある曾根沼、野田沼、宇曾川、農業排水路および湖岸の5カ所で2006年1月から8月にかけて調査を行ったところ、農業排水路で糸状性藍藻が多かった以外は付着珪藻が優占していた(図)。
- 付着珪藻が多かった地点では共通する環境は見られなかったが、糸状性藍藻が優占していた農業排水路は1月から4月にかけて水温が高かった。

◆成果の活用・留意点

- 今後の発生動向を経年的に調査をしていくとともに、環境項目との関連性について検討する必要がある。

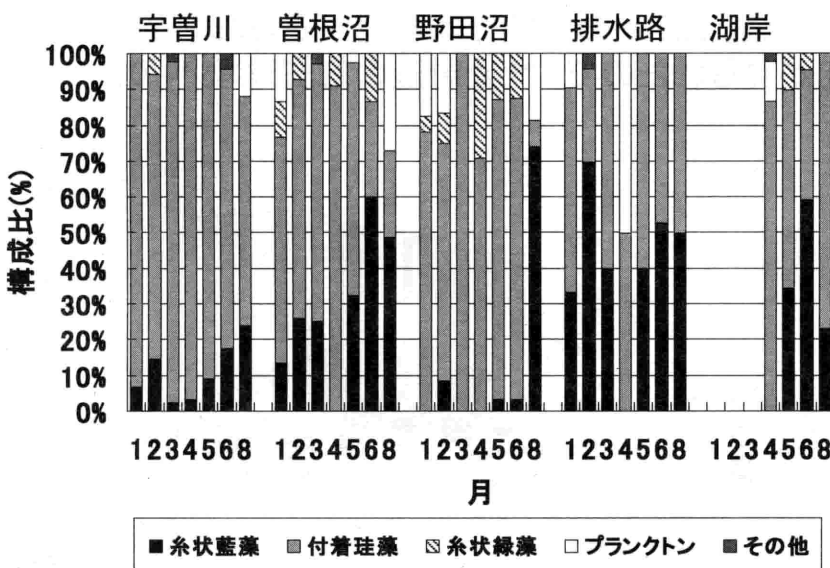


図1 エリ網の周辺環境での付着藻類構成比

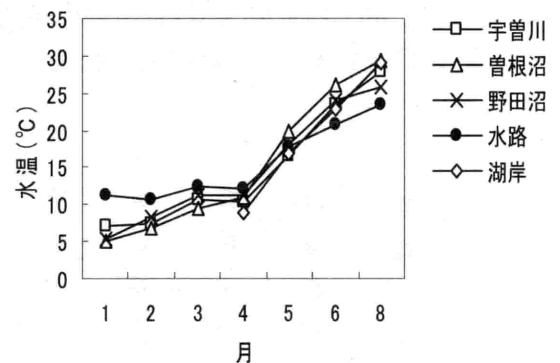


図2 エリ網の周辺環境での水温変化